

令和3年度 大学による地方創生人材教育プログラム構築事業（通称：COC+R） 全国シンポジウム開催報告！

「人材育成から人材輩出へ」

令和3年度大学による地方創生人材教育プログラム事業全国シンポジウム『人材育成から人材輩出へ』を2月12日～13日にオンラインにて開催しました。連休にも関わらず、大学等教育機関、地域金融機関、地域経営支援団体、地域企業経営者、学生、行政等、二日間、合わせて450名を超える視聴者に参加頂きました。

一日目は、本学齋藤滋学長の開会挨拶に続き、新田八朗富山県知事が来賓挨拶を行いました。その後の基調講演では、株式会社ニューラル代表取締役CEO夫馬賢治氏が『ローカルESG、これまでの延長線ではない産官学金の連携による、その地域らしい地方創生に向け、地方大学が果たすべき役割とは？』と題し、我々を取り巻く環境の変化と、そのような社会において大学に何ができるのか、との論点を提示しました。その後、4つのワークショップを開催し、これからの「地方大学と地域の連携の在り方」や「地方大学が輩出すべき人材」について視点を広げました。

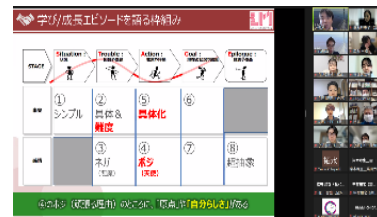
二日目は、『地方創生人材教育プログラムと地方大学が輩出すべき人材の地元就職の因果モデルの構築』に向けた議論を行いました。本COC+R事業の選定4大学の取り組み事例を交えながら、地域産業や企業で活躍するた

めの鍵となる視点、学生の意識変容の鍵となる視点から議論をしていきました。因果モデルの構築に向けた検証ポイントを提示し、COC+Rの全国展開の重要性を確認し、二日間にわたるシンポジウムを閉会しました。

ENGINEインターンシップを振り返る

2月11日、先月、終了したENGINEインターンシップのこれまでの振り返りをオンラインで行いました。

まず、全員で1年生の映像課題を視聴した後、各自『学びと成長をエピソードにする試み』を発表しました。参加した根津真奈実さん（工1）は、「インターンシップでは、議論に際しては可視化すること、見通しを立てることの大切さに気付いた」と発表しました。また、5カ月に渡る活動を終えて、宮崎友理さん（経3）は「就職活動にインターンシップの経験を活かしたい」、杉下晟作さん（経2）は「インターンシップ当初、自身の変わり続ける力に着目していたが、今後はどう変わりたいか明確にしていこう」と抱負を述べました。



ENGINE科目

「産業観光学」授業紹介！

1月24日の産業観光学では、これまでグループで行ってきた産業観光のモデルコースづくりのプレゼンテーションをもとに各種表彰を行いました。

産業観光のモデルコース部門では、獨創性、実現性の観点から、観光列車のべるもんだに着目した「Bells montagnes et mer」、絶景を追求した「ここでしか味わえない絶景がある」の2作品が受賞した。また、産業観光「おすすめ写真」部門では、富山市ガラス美術館での写真など3作品、産業観光「改善提案書」部門では、施設の問題を具体的に指摘し、解決策を提案した「富若水上ライン」、食と組み合わせた提案をした「富山ガラス工房」が受賞しました。

各賞の表彰式では、プレゼンターとして本学理事で富山商工会議所の高木会頭が登壇しました。講評に際し、高木会頭は「産業観光とはおしきせの観光ではない」と強調し、「自身が関わり、行動し、工夫することが重要」と指摘しました。



受賞の様子



高木会頭

キャリア形成イベント

「しごとーくin金沢」のお知らせ

金沢大学のキャリア形成イベント「しごとーくin金沢」が3月3日にオンラインで開催されます。富大生も参加可能です。

今回は「地域で働くために学生時代にできること」をテーマに3名のゲストとトークを交します。地域での学びをどのようにキャリア選択に活かしたのか、地域にどう貢献しているかを深掘りしていきます。是非、ご検討下さい！

【日 時】3月3日（木）19:00-21:00

【テーマ】地域に関わるキャリアを考える

【ゲスト】笠原美緑氏（民間企業）、杉本晴一（市役所職員）、村上純一郎（フリーランス）

【参加方法】Zoom（URLは当日、送付）

下記QRコードからお申し込み

【締切り】3月2日（水）15:00

【詳細】下記URLをご確認下さい。

<https://engine-prgm.w3.kanazawa-u.ac.jp/news/kanazawa-shigotalk2/>

